第6号
平成２４年
3月

同窓会だより

山梨県立山梨高等学校同窓会

同窓会長　岩崎　一恵

厳しかった寒さも和らぎ天も地も春のよそおいをこらしてきましたが、同窓会員の皆様方もますますご健勝の事と存じます。本同窓会だよりも第6号を数え 母校と同窓会のかけ橋として定着してまいりました。毎号ごとに母校の活気ある状況や同窓会の活動が報告され、楽しみにされている方々も多いと伺っております。

そこでさらにこの同窓会だよりが充実したものになるよう、たくさんのご意見やご協力をいただければ幸いです。最後に第6号発行にあたり、ご尽力いただいた関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

学校長　深澤　幸一

「冬来たりなば、春遠からじ。」とぶつぶつ唱えてはみるものの、四半世紀ぶりとも言われる厳しい寒気に、身も心も縮まるかのような今冬でした。同窓会の皆様におかれましては、いかがお過ごしでしょうか。

ようやくの水ぬるむ春の到来に心躍る思いがいたします。おそらくは、あの東北・北関東の地においても、雪解けの水音はひそかに、しかし着実に胎動しているにちがいありません。本校においても、過日行われた卒業証書授与式において、全日制課程170名、定時制課程11名の生徒が晴れて卒業し、山梨高等学校同窓会への入会を許可されました。彼らの今後の活躍を温かく見守っていただければと思います。

さて、引き続く経済の不況やグローバリズムの進展、様々な面での制度改革は、学校教育に大きな影を落としています。しかしながら、「至誠無息」の校訓のもと、職員・生徒一丸となって、この輝かしい伝統の継承とその発展に邁進していく所存でおります。どうか変わらぬご支援・ご協力をいただけますようお願い申し上げ、挨拶といたします。

同窓会研修旅行

“有意義だった富岡製糸場見学”

恒例に従い、創立記念日の10月23日、「世界文化遺産暫定富岡製糸場と秋風さわやか軽井沢散策」の研修旅行が開催されました。

深澤校長先生と事務局の武藤さん、及び各支部からの参加者と本部役員の総勢31名は、梨窓会グループの目印として、武藤さん手作りの「折り紙ワッペン」を各々胸に、朝8時富岡へと出発しました。

中央道=圏央道=関越道=上信越道=富岡製糸場までの約3時間は、窓外の紅葉を眺めたり、ユーモアに富んだガイドに耳を傾けたりしながら楽しく過ごしました。

富岡製糸場は、ボランティアガイドの説明を聞きながら、1時間ほどの見学となりました。その説明を要約しますと、「明治政府は、殖産興業推進のため、大規模な機械を装備した近代的な製糸工場を稼働させ、製品の量や質を高めていくことが欠かせないとの考えから、先駆的な技術を持つフランス人技師の指導の下、フランスから繰糸機械等を輸入し、養蚕業の盛んな富岡に日本初の官営の近代的な製糸工場を創設した。そして、良家の優秀な子女が工女として日本全国から集められ、彼女たちは、充実した労働環境の中で繰糸技術を習得し、後に全国に建設された製糸工場で、その繰糸技術を伝授する役割を果たした。」とのことでした。

現在、東西二つの繭倉庫、繰糸場・事務所・外人宿舎・医務室・工女館等の建物は、富岡市が管理しています。木材で造られた骨組みの間に煉瓦壁を積んだ「木骨煉瓦造」の建造物が、今もなお当時の姿のまま保存されているのには感心しました。

見学後は、路地の奥の情緒ある老舗「よろずや料理屋」での昼食をゆったりと堪能しました。

軽井沢まで上信越道を約1時間、バスの前方に大層な人込みが現れ、さすが名高い「軽井沢銀座」と納得しました。散策タイム・お土産タイム・コーヒータイム等、各々が2時間の自由時間を満喫し、晴れやかな笑顔で軽井沢を後にしました。

佐久=野辺山=中央道と、疲れ知らずの面々は、梨校生だった頃のように賑やかに歓談したり、「旅のしおり」を手に高らかに合唱したり、時間を惜しんで楽しみました。19時、予定通り帰着し、すべての日程を無事に終えることができました。

深澤校長先生始め、ご参加ご協力いただきました皆様方に心より感謝申し上げ、研修旅行の報告と致します。

奨学金授与式

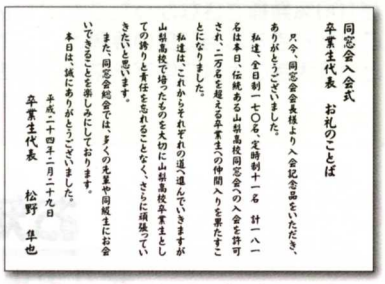
昨年12月13日第3回同窓会役員会にて奨学生候補者が承認され、引き続いて平成23年度梨窓会奨学生奨学金授与式が山梨高校文化創造館梨窓ホールで行われました。奨学生は過日、職員会議にて厳正な選考の結果、選出された生徒です。学校側からは校長先生、学年主任、担任、保護者、学生と同窓会側からは正副会長、各支部長が出席し厳かに奨学生7名へ授与されました。また、今年から奨学生証書が付与されました。

本奨学金は昭和42年に創立50周年記念事業の一つとして発足し、同窓生有志の寄付金を基金としています。各学年2名、定時制1名に授与されます。奨学生を代表して3年生の向山果那さんが「将来のしっかりした目標を立て、思いやりを持ち、社会に貢献していきたい」と立派な挨拶をされました。校長先生からは、「この授賞を励みにして生活、学業、部活に、より一層努力し向上してください」とのお言葉が添えられました。昨年は大きな災害があり、被災地への協力、また節電に始まった人々の生活の修正などが求められ、この式からも生徒たちの真剣さがひしひしと伝わってきました。

山梨高校同窓会入会式

美しい白銀に包まれた2月29日、山梨高校同窓会入会式が行われ、全日制170名、定時制11名計181名が新たに入会致しました。

高橋文子会長代行から心からの歓迎の挨拶が述べられ、多くの同窓生が社会の多方面で活躍されていること、同窓会は母校の発展への貢献と会員の親睦の場であると強調されました。



同窓会入会式
卒業生代表　お礼のことば

只今、同窓会会長様より入会記念品をいただき、ありがとうございました。

私達、全日制一七〇名、定時制十一名　計一八一名は本日、伝統ある山梨高校同窓会への入会を許可され、二万名を超える卒業生との仲間入りを果たすことになりました。

私達は、これからそれぞれの道へ進んでいきますが山梨高校で培ったものを大切に山梨高校卒業生としての誇りと責任を忘れることなく、さらに精進していきたいと思います。

また、同窓会組織では、多くの先輩や同級生にお会いできることを楽しみにしております。

本日は、誠にありがとうございました。

平成二十四年二月二十九日

卒業生代表　松野　隼也

引き続き各クラス理事11名を代表して小澤寿子さんに委嘱状が、また入会記念品が代表松野隼也さんにそれぞれ贈られました。松野さんからは別掲の通り若々しい抱負が述べられました。厳粛ななかにも元気溢れる入会式でした。

新入会員の皆様の今後のご活躍とご健勝を心からお祈り致します。

山梨高等学校卒業証書授与式

しっとりと落ち着いた雰囲気のなかで新たな決意を聞く!!

平成23年度山梨高等学校卒業証書授与式が3月1日、厳粛な中、盛大に行われました。卒業生は、全日制170名、定時制11名の合わせて181名が、各組担任の呼名に応え深澤校長先生から卒業証書を授与されました。

校長先生の励ましのお言葉は、卒業生の日頃の学習、諸活動を高く評価され、「本校で得た知識と友情を終生大切にしつつ精進されんことを」と結ばれました。

卒業生を代表して飯島健太さんの答辞も実に感動的でした。未曾有の災害に見舞われた昨年、平穏な日常があることに深い感謝を持ち高校生活で得たものを確認し、今日からの新たな出発に挑もうとの決意がひしひしと伝わって参りました。3年間の皆勤賞が18名、立派な足跡にも心からの拍手を送りました。卒業生の前途に幸多からんことを参列者一同ひたすらお祈りし閉式しました。

同窓生の活躍紹介

今回は、私たちの大先輩である仏画師、安達原玄仏画美術館館長様からご寄稿頂きました。
安達原様は昭和19年度の卒業生です。

“生きるとは自分を探す旅”

安達原玄仏画美術館館長　安達原　玄

皆様、お元気でお過ごしのことと思います。

人にも物にも出逢いがあり、人生が大きく変えられていくことに気付きます。早く母と死別、「兄弟仲良く、人を頼ることなく、自分たちの力で生きなさい。」と遺言を守り家庭を持ちました。胸中に氷のような冷たいものが根をおろし消えません。そんな折、京都の博物館で曼荼羅を拝観しました。胸の中の氷がさらさらと溶けていきました。まさに曼荼羅は、私の人生観を一瞬にして変えました。4.5mの曼荼羅を生涯かけて描く決心をしたのが私の写仏人生の始まりでした。曼荼羅に出逢わなければ、今の私は存在していません。そんな折、同窓の河島榮子さんと出会い、同窓会の皆様方に学習会をとのことで、曼荼羅の展示企画に喜んで出席させていただきました。30年前の事です。折悪しく豪雪にて心配しましたが、雪の中皆さまにご出席いただきました。会場で色紙に観音様をお描きすると故郷の上空に謙虚な祈りが漂いました。

「生きるとは自分を探す旅」

自分自身に巡り合うのは難しいですが、仏画を描くことは自分自身の心と魂に出会う一番の近道です。悲しいこと苦しいことなど忘れて一時無我の境地になります。一本の筆と一枚の紙とをご縁にして仏様が湧出してくださるのです。その後、山梨や塩山、甲府六教室に広がりました。日常性の中にこそ祈りは大事なことではないでしょうか・

故郷、なんと心休まる言葉でしょうか。釈尊、80歳になられ入滅の近いことを悟られ、故郷へ向かって托鉢の旅に出発されます。その途上、最後の町パイシャリの丘に立ち、町を振り返り、象の眼のように優しく悲しみを浮かべ「人生は甘美であった」とつぶやかれました。一筋の慈悲の光のお導きに仏様を描かせていただきましょう。

私達のすることは永遠の一滴にすぎないが永遠に続く一滴でありたいと願っております。皆様方の幸せをお祈りしております。

学校だより

「軌跡」

生徒会会長　飯島　健太

私は、昨年の10月、平成23年度の生徒会会長として、校長先生より認証状を受け取った。そこで初めて、今まで多くの先輩方が築き上げてきたこの山梨高校の歴史と伝統の重みを同時に受け取った気がした。会長就任当初は、伝統ある山梨高校の生徒会会長という立場に大きな責任と不安を感じていた。しかし、今よりさらに良い学校を築くため、本部の仲間達や先生方に協力していただき、活発な生徒会活動を実現することができた。

まず私たち生徒会本部が掲げた目標は『挨拶をする』ということだ。挨拶はすべての基本だと私自身が考えていたため、生徒同士の気軽な挨拶、生徒と先生方との間で交わされるコミュニケーションの挨拶、さらには地域の方々との自然な挨拶を実現したいと考えた。実現に向けて、生徒会本部役員は、毎日朝の登校時間に合わせて正面玄関を中心に、部活動の生徒たちとともに挨拶運動を実施した。結果、多くの生徒が自らすすんで挨拶ができるようになり、生徒と先生方の間にも会話が増したように感じた。

2つ目の取り組みとして、校内に目安箱を設置した。きっかけは、江戸幕府の八代将軍徳川吉宗が市民の意見を取り入れるために行った政策を、私たちの学校でも実現したいと考えたからだ。生徒会活動というと生徒会の本部役員が立案・計画し、実行していくものだと思われがちだが、私は生徒一人一人の意見こそが活動の中心にあるべきだと考えていた。しかし、この取り組みには改善すべき事柄が多く、今後の課題となった。

今日の日本は、世界的な不況や昨年3月に発生した東日本大震災の影響を受け、多くの課題が山積みになっている。私たちも3月1日に高校を卒業することで、社会の一員となります。世の中の動きに目を向け、この山梨高校で学んだことを人生の財産として、これからの生活にいかして行きたいと思っています。

「全国大会に出場して」

囲碁将棋部　1年3組　馬場　望

県内の予選を通過し、平成24年1月28日に京都府で行われた将棋の全国大会に出場してきました。

一日目には予選が行われ、私は四人の選手と対局しました。いざ本番が近づくと緊張してしまい、一局目は王手を見逃すなど、ミスが目立ちました。しかし、その後は挽回し一勝することができました。二局目は、冷静に指そうと思い臨みましたが、全国大会という重圧に押された結果、二勝二敗で予選敗退となってしまいました。

今回全国大会に出場して、練習してきたことが100%発揮できなかったことなど悔しさは残りましたが、様々なことを学ぶことができて本当に良い経験となりました。来年は、さらに精進し、全国大会という大きな大会の中でも堂々と戦える自分になりたいと思っています。

「新人大会に出場して」

体操部　1年3組　多田富宇佳

平成23年10月8日に新人大会の体操競技県大会が行われた。私にとってこの大会は高校に入学してから最初の大会となった。

昨年の春、私は右膝の靭帯損傷という大きな怪我をした。その後、リハビリや補強運動などのため器具を使った練習が全くできない日々が続いていた。周りの選手達から遅れてしまう焦りや、目標にしていたインターハイ出場もできなくなり、自分の目標を完全に見失った。しかし6月中旬、ようやく医者からの許可を頂き、通常練習に復帰した。その時から私には10月の新人大会での優勝という大きな目標ができた。動くことのできなかった期間が長かったため、すぐには思うように動いてくれなかったが、日々の練習を重ねた結果、個人総合優勝という目標が実現できた。反省する事は沢山あるが来年度に向けまた新たな目標に向かって前向きに練習していきたいと思う。

▲囲碁将棋部の練習風景

お知らせ

ぜひお出かけ下さい!

平成24年度山梨高校同窓会総会・懇親会

日　　時　平成24年4月29日(祝)午前10:30～
会　　場　山梨県立山梨高等学校
当番幹事　昭和44年・平成元年度卒業生
会 員 券　1枚3,000円

同窓会会長　岩崎　一惠
実行委員長　平野婦美子

※来年度の当番幹事は、昭和45年・平成2年度卒業生です。

▲体操部　多田富宇佳さん

同窓生の方でご活躍している方がおりましたら、事務局までお知らせください。ご紹介させていただきたいと思います。

〒405-0018　山梨県山梨市上神内川194
山梨県立山梨高等学校　同窓会事務局
TEL：0553-22-1621　FAX：0553-22-1623
URL：http://www.yamanashi.kai.ed.jp